



大津市報道資料
市政記者各位

お問い合わせ先

担当者	長等創作展示館		担当：	芹澤 孝則
連絡先	077-523-5101		内線	
総合計画 位置付け	基本方針	基本政策	施策	取組の 方向性
	2	8	19	1

令和7年8月14日

「三橋節子のまなざし ～自然へ、人物へ、物語へ～」

展示替えのご案内

三橋節子美術館 「三橋節子のまなざし ～自然へ、人物へ、物語へ～」

【会期】2025年8月2日（土）～12月26日（金）

画家 三橋節子は、35歳という若さで生涯を終えるまで、「自然」、「人物」、「物語」を題材にした作品を描きました。

幼い頃から自然や命あるものすべてを愛する心を持ち、誰もが描くきれいな花でなく、身近にある誰にも見向きもされないような雑草に美を見い出し、取り上げたことから、「野草の画家」と称されました。

草花や樹木を描いてきた彼女は、インドから東南アジアの研修旅行をきっかけに太陽の恵みと大地のエネルギーを受けて逞しく生きる現地の子どもたちの姿に人間の生命力の根源を見い出し、インドやカンボジアの人々を題材にした作品を描きます。

結婚から出産を経た後は、自身の子ども等を母親らしい愛情溢れる作品に描き、宮沢賢治の童話から「よだかの星」、「おきな草の星」等の物語絵も制作しました。そんな幸せ絶頂の中、右肩鎖骨腫瘍（癌）により右腕を切断するという悲運に見舞われましたが、家族の愛や励ましにより絵筆を左手に持ち替え、画家として再起しました。

自らの運命を「近江むかし話」中の伝説になぞらえ、「三井の晩鐘」や「花折峠」等、湖の伝説シリーズと呼ばれる作品を描きあげました。

彼女がどのように見て、何を感じ、何を表現しようとしたか、その魅力に迫ります。